

バッハ「12の小プレリュード」の演奏について

中 村 一 郎

大バッハと呼ばれ、西洋音楽の源でもあるヨハン・セバスチャン・バッハ **Johann Sebastian Bach** (1685~1750) の音楽の世界は実に偉大で計り知れないものがある。彼はオペラを除くあらゆる音楽の領域の作品を残しているが、鍵盤楽器のために書かれた作品はピアノ学習上特別重要なものばかりである。

彼のクラヴィーア曲は 200 曲をこえるのであるが、その著名な作品は次の通りである。

フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集、アンナ・マクダレーナ・バッハのためのクラヴィーア小曲集、二声・三声のインヴェンション、平均律クラヴィーア曲集、イギリス組曲、フランス組曲、パルティータ、トッカータ、ファンタジーとフーガ等。

さてこれらの名曲の中でもピアノ音楽の聖書とよばれる平均律クラヴィーア曲への到達が、ピアノ学習者にとって1つの大きい目標なのであるが、若い学習者の大半は多声音楽 (Polyphonie) の演奏の困難に恐れをなし、次第にバッハの作品のピアノ学習を敬遠して行く者が多いのは残念である。平均律クラヴィーア曲集へ進む前段階であるインヴェンションを練習する期間に、正しく、快適に、そしてカンタービレ奏法による美しさを感じさせることができる指導法を教師として研究しなければならないのである。

12の小プレリュードはこの問題の解決に最適の曲集なのである。

シュヴァイツァーは次の如く述べている。「是等の小作品の中に於てさえ、バッハの圧倒的な偉大さが啓示されている。彼は只、単純なる幾つかの練習曲を書くつもりであったが、実際に書いたものは、一度弾いたものは夫れが忘れられず、また大人が常に新しい喜びを以て、夫れに戻って来る類の作曲であったのだ。」(津川主一訳)

プレリュードの12曲のうち7曲(第1, 4, 5, 8, 9, 10, 11番)はフリーデマンのための小曲集中のものであり、他の5曲(第2, 3, 6, 7, 12番)は J. P. ケルナー (Johann Peter Kellner) の写本の中にある曲である。ハ調からイ調まで調性に従って配列して1843年に出版された。楽曲は規模も小さく即興的な自由な構成のものが多いがインヴェンションに比較される程の対位法的手法の作品も含まれており、バッハが息子のフリーデマンのために作曲した教育的配慮がうかがえる明快な名作である。全12曲を弾きあげてみるとバッハの音楽の喜びが直接心に伝わりその芸術性にうたれる小品である。小曲であるからこそ練習に於て緻密な心くばりが出来るのであり、インヴェンションへの導入の最適の教材として愛奏を希望するのである。

次にその演奏についての注意点を述べる。

プレリュード 第1番 C dur BWV 924

フリーデマン・バッハのためのクラヴィーア小曲集の第2曲である。

同じ音型の反復である前半の単調さは、後半のトッカータ風な急速なパッセージで自由な展開をみせて素晴らしい。テンポは曲の内容をよく理解し弾きこむことにより、よいテン

ポを感得出来るものであるが、参考資料としてケラー、ブゾーニ、フィッシャーの版での速度と筆者のものをあげてみよう。

Keller — ♩ = 63 Busoni — *Sempre tranquillo*

Fischer — *Moderato* 筆者 — *Moderato*

(1)の演奏では左手の装飾音を取除いた練習を行い、特に右手の各拍のはじめの16分休符の正しいリズムのコツを手頭を柔かくした運動で覚えた上で、装飾音を入れて弾く。それは正確な拍子の時点で音を出すことである。第3小節と第4小節の装飾音 *Doppelt cadence und Mordant* は、右手とのつりあいを考へて数の少いトリルで譜例 a), b) の如くきれいに表現した方が好ましい。

(1)

a) *mf* 奏法

b) *mf* 奏法

(2)の16分音符によるパッセージは両手の受渡しにリズムにも音量にもむらのないよう、1の指の強さに注意する。この部分の流れやもり上りは、よい指遣いがものをいうのである。終止形の前で大袈裟な *rit.* を行はないように、自然な重さによる弾き終りとする。

(2)

mp

dim.

mp

mf

プレリュード 第2番 *C dur* BWV 939

ケルナーの写本の中にある曲である。

初歩の学習者は分散和音によって小さい手をひろげることが出来る。

ケラー — ♩=92 ブゾーニ — *Sostenuto* フィッシャー — *Allegro*

筆者 — なめらかに力強く、かけ出さないで、

(3)

例(3)の最初のオクターブはたっぷりした音量を響かせるように、腕、肘、手首はこわばらせないで、指でしっかりつかむように弾く。第4小節から左手が右手の小型の模倣を数回行うが、正しく選んだ指遣いによってうたって弾くことが大切である。第9小節の左手のモルデントは指先の力をぬく感じをうまくつかんで奏し粒を揃えるのである。

最後から3小節目の16分音符の пассаージュは指先に重みがかかるような良い運指で効果をあげる。

プレリュード 第3番 *C moll* BWV 999

ケルナーの写本の中にある曲である。これには「リュートのために」と表題に書かれている。ハーブ風に弦をかき鳴らしている感じが偲ばれる曲である。

ケラー — ♩=72 ブゾーニ — *Leggermente*

フィッシャー — *Allegretto* 筆者 — 静かに動いて

平均律第1巻の第1番のプレリュードと同じくつぎつぎと連続する分散和音による作品である。分散和音を和音にまとめて弾いてみると、和声進行も指のポジションの変化もつかみ易くなり、演奏に役立つ。

(4)

各小節1拍目の音は常に左手の4分音符から始まるので、これを充分テヌートし、柔かく響かせて、音楽がこの低音によって進行している事を感じ取らねばならない。右手は第3拍のリズムがかけ出したりだれたりしないように注意が必要である。



終結の和音の前で右手は自然な重さでテヌート気味に奏し、終りの和音はおだやかな音量が好ましい。全曲の表現では第17～25小節の盛り上りと第25～32小節の *dim.* を大切にす。

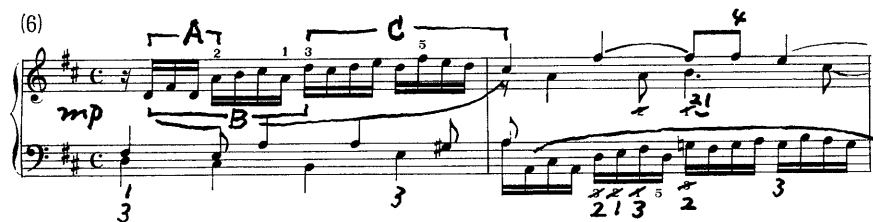
プレリュード 第4番 *D dur* BWV 925

フリーデマンのための小曲集の第27曲である。厳格な模倣書法により構成された名曲である。

ケラー — ♩=66 ブゾーニ — *Jempo giusto*

フィッシャー — *Allegretto* 筆者 — *Moderato* なめらかにうたって

主題は10度の音域をもつ16分音符の音階的進行である。主題の全体の形は始めの4小節でソプラノ、バス、アルト、バス声部の順に应答、反復されて、又、終りの4小節にも示される。

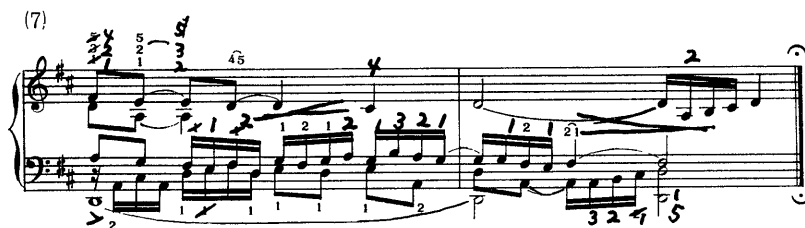


第5～7小節ではモチーフCの追かけと反復、第10～11小節はモチーフBの追かけ、第8～9小節はその上拍部であるAの追かけと続いて、モチーフ的展開の技法が見事である。

第1小節の左手の2声部と、第2小節の右手で受持つ2声部には、切分音的な進行がある。この後この形態が度々現れるので、奏者は2声の指を意識して正しく聴き乍ら、ゆっくり練習を重ねて、すっきりと仕上げねばならない。この型の弾き方如何によって、この曲の演奏効果は大いに左右されてくる。

第8小節はPから始まり、第11小節の前半まで自然な *cresc.* で高潮して行く、そして左手のリズムが明瞭に流れ、特に第10小節からのモチーフBの追かけは生き生きとした

楽しさを表現すること。



終りの2小節、譜例の(7)は内声に主題が現はれて、その上、低音部のためにまともにくい部分である、主題はややノン・レガートになってもよい、澄んだ音を出すように心掛けるようにする。終りは弱々しくなりすぎぬようにし充分リテヌートして落ちついた歌い方で終了する。

プレリュード 第5番 *D moll* BWV 926

フリーデマンのための小曲集の第4曲である。この曲も終結近くにトッカータ風なパッセージの盛りあがり全体をひき締めている。

ケラー — ♩ = 116 ブゾーニ — *poco vivace*

フィッシャー — *Allegretto moderato* 筆者 — *Allegro moderato*



(9)

アレグロモデラートにやや思い切って演奏する。譜例(8)の左手、装飾音符の次の小節の低いD音は荒いタッチにならぬように注意をする。

譜例(9)のはじめの第39小節以降のカデンツァの如き動きは、左右の手の交互受渡しのかわり目が判らぬように奏し、特に拍子を乱さないことである。第39～42小節間の走句が $\frac{6}{8}$ 拍子に変形しやすいので注意をする。

次の第43～44小節ではカデンツァが判るように強く巾広く表現し、そのあと *a tempo* にするが次第に静かな落ついた演奏で終る。

プレリュード 第6番 *D moll* BWV 940

ケルナーの写本の中にある曲である。

静かであるが、深い悲しみを秘めた作品である。

ケラー — ♩=60 プゾーニ — *un poco Largamente*

フィッシャー — *Adagio* 筆者 — 巾広く表情豊かに

(10)

合奏曲の緩徐楽章のアリアを奏する気持でソプラノ声部とバス声部とを、交互に歌はせて行く。第2小節以降の右手に1拍を越えて持続す音が多いので注意を要する。4声部をレガートにひく練習の曲である。

(11)

譜例(11)の第8～10小節は *dim.* のために音が消えてしまわないように奏する。特に右手に現れる連続する4分音符は、指の置き換えを守り、手頸の無駄な力を抜いて音を保持し、ソプラノを充分歌って終結に向う。この際、右手の中声はうるさくならぬように、柔かいタッチを心掛けて練習を重ねる。

プレリュード 第7番 *E moll* BWV 941

ケルナーの写本の中にある曲である。

しっとりとした流れをもつ優雅な曲である。

ケラー — ♩=112 ブゾーニ — *grazioso e scorrevole*

フィッシャー — *Andante* 筆者 — やさしくうたって

(12)

この曲の音型は、第2音から始まっているので、此に続く左手の各旋律の入り方が、同じ音型であることが判るように奏すること。

第3～5小節及びこれに続く第10小節までの右手と左手とはそれぞれ別のフレーズが要求されているので、左右別個の練習を注意して行なうこと。特に右手のソプラノ、アルトの二声部はレガートに歌はせて自然な盛りあがりのある表現を把握する。

(13)

譜例(13)の始の第11小節で左手が右手の模倣を行なう型は、共に目立つように強めになめらかに奏し、次の第12小節は弱く軽く力をぬき、この表現を3回つづけ乍ら *cresc.* を行なう。最終の第22小節はおだやかにテンポを落すのである。

プレリュード 第8番 *F dur* BWV 927

フリーデマンのための小曲集の第8曲である。

合奏曲のような明快で楽しい小曲である。

ケラー — ♩=88 ブゾーニ — *Allegro*

フィッシャー — *Allegro molto* 筆者 — *Allegro*

(14)

譜例(14)で第1～2小節は細かいリズムを右手で行ない、第3～4小節では逆にこの型を左手が奏する。16分音符の各拍のあたりに軽いアクセントを意識してつねに指練習を別個に行うこと。両手の音の反復を、均斉のとれたリズムで作りに上げる。

第5～8小節にかけての左手のスタッカートは少し長めに弾き、話しかけるような表現をとる。

(15)

The image shows three systems of musical notation for Example 15. The first system includes a piano (p) dynamic, a crescendo (cresc.) marking, and a mezzo-forte (mf) dynamic. The second system features a decrescendo (dim.) marking and a piano (p) dynamic. The third system includes a fortissimo (f) dynamic. The notation includes various fingerings, slurs, and accents. The bass clef part in the third system has a complex rhythmic pattern with many slurs and accents.

譜例(15)の始めの第8小節と第9小節との各後半の左手の分散和音は音の線が目立つように弾く。終結の部分は *risoluto* に表現し、ペダルを使用することが出来る。

この曲は前半8小節と後半8小節とに分けられるが、前のフレーズの終りと後のフレーズの始まりとが、第8小節の中間第3拍で重なっている為に、15小節の長さとなっているのである。このフレーズの替り目がこの曲に、1つの魅力ある効果を与えているのである。

プレリュード 第9番 *F dur* BWV 928

フリーデマンのための小曲集の第10曲である。

ケラー — $\text{♩} = 66$ ブゾーニ — *Moderato*

フィッシャー — *Concertante* 筆者 — *Allegretto moderato*

模倣書法により構成された2声のインヴェンションとみることができる。一部に和声的な声部と、オブリガート風な声部とが加はっているが、輪郭線は明らかに2声である。

(16)

The image shows two systems of musical notation for Example 16. The first system includes a mezzo-forte (mf) dynamic and a fortissimo (f) dynamic. The notation includes various fingerings, slurs, and accents. The bass clef part in the second system has a complex rhythmic pattern with many slurs and accents.

モチーフAは指の重みでレガートに弾き、最初の音をおつつけないように注意する。モチーフBは和音を響かせる為に、肩、腕、手頸を柔軟にして、指でしっかり和音を撫むようにして弾き、そのスタッカートは鋭くしないように奏する。

Example 17 is a piano score for a piece in G minor. It consists of two staves: the upper staff for the right hand and the lower staff for the left hand. The music is in 3/4 time. The right hand part features a melodic line with slurs and accents, marked with dynamics *f* and *mf*. The left hand part provides harmonic support with chords and moving lines, also marked with *f* and *mf*. Fingerings are indicated by numbers 1-5. There are several slurs and accents throughout the piece.

譜例(17)のはじめに弾く左手、右手のモチーフAと、第8小節の左手、右手のモチーフBとは、はっきり表現する。第6小節の左手の2つめの音から始まる交互に組み合わされた2声は、左手の指先を少し立て気味にして重さかけると、易しく弾くことができる。

Example 18 is a piano score for a piece in G minor. It consists of two staves: the upper staff for the right hand and the lower staff for the left hand. The music is in 3/4 time. The right hand part features a melodic line with slurs and accents, marked with dynamics *f* and *mp*. The left hand part provides harmonic support with chords and moving lines, also marked with *f* and *mp*. Fingerings are indicated by numbers 1-5. There are several slurs and accents throughout the piece.

譜例(18)の第11小節は深いタッチで強めに始めて特に左手の音の線を出すこと。右手は重音がずれないようにまとめる。またこの部分は早くから *dim.* にしないで強さを保つこと。第12小節の後半から次第に音量を加へ、第16小節でひき締ったもり上りを作る。終りの小節は少し速度を落してていねいな終りにする。

プレリュード 第10番 G moll BWV 929

フリーデマンのための小曲集の第48曲である。この曲は、バッハがシュテルツェル (Go ttfried Heinrich Stölzel) のメヌエットのために作曲したトリオである。

2部分形式の短調の静かな情緒ある曲である。

ケラー — ♩=92 ブゾーニ — *Andante molto espressivo*

フィッシャー — *In tempo di Menuetto* 筆者 — *Andante* 静かに歌って

譜例(19)はトリオの後半の部分である。右手の2声部の表現を大切に練習し、ソプラノ声部の3拍をこえる長い音をていねいに響かせる。又その時の内声の8分音符は無表情にならぬように歌わせて、流れをソプラノに渡し、次第におだやかに速度をゆるめて終結させる。カンタービレ奏法の教材として恰好な美しさを持った小品である。

プレリュード 第11番 *G moll* BWV 930

フリーデマンのための小曲集の第9曲である。

この曲の1つ1つの音符に指遣いが記入されているが、これはバッハの逆指法なのである。これを見るとバッハが黒鍵に1の指を使わないようにした事が判る。2部分形式の作品である。

ケラー — ♩=76 プゾーニ — *Elegantemente tranquillo*

フィッシャー — *Con moto* 筆者 — *Andantino*

譜例(20)の第3小節からソプラノ声部に現われる巾広い音程を含む旋律線は、腕、肘、手頭を柔軟にして、指先に重みをかけて、その音程が大変自然なレガートで統一されるまで右手だけの訓練を試みる事が大切である。この練習によって、各フレーズの音楽的な息づかいが自づと理解されてくるものである。

バス声部の4分音符は全てノン・レガートで奏する。

譜例(21)のはじめの第11小節の装飾音符を音楽的に奏するために、先づ左手の音を強めに弾き、右手とのリズムのつり合いが正しく取れる段階になった時点で、左手の音量を自然に軽くしてまとめるのである。

第12~16小節のソプラノ声部とアルト声部は大切にしたいところである。ソプラノ声部の4拍の音符や付点2分音符や付点4分音符等の長い音は、指を鍵盤上にその時間だけ正しく置いて、奏者はその指のタッチを意識して音を聞いていなければならぬ。アルト声部は変更したこの指遣いでやさしく弾くことが出来る。第15~16小節の終結まではゆっくり弾きおさめるようにする。

曲の後半も同じ奏法を心掛けるのである。

プレリュード 第12番 *A moll* BWV 942

ケルナーの写本の中にある曲である。

2声のインヴェンションである。両手の独立性のためのすぐれた練習曲で、明るい踊りの動きを感じさせるものがある。

ケラー — ♩. = 72 ブゾーニ — *Gigue con spirito*

ウィッシャー — *Allegro energico* 筆者 — 生き生きとした踊りの気分で

(22)

譜例(22)の如く8分音符の第1音だけスタッカートにしてキビキビとしたリズムを強調する。第2小節の右手の2拍目のリズムと、第4~5小節に於けるそれぞれの2拍目の両手のリズムは、特に生き生きと歯ぎれよく表現する。

(23)

(24)

The image shows a musical score for Example 24, which is a rapid passage from the 12 Little Preludes by J.S. Bach. The score is written for piano and consists of two staves: a treble clef staff for the right hand and a bass clef staff for the left hand. The right hand part is highly technical, featuring a series of sixteenth-note runs. Fingerings are indicated by numbers 1-5 above the notes. A dynamic marking of *f* (forte) is placed above the first measure of the rapid passage. The left hand part is simpler, consisting of a few notes and rests. The score is labeled with the number (24) in the top left corner.

譜例(23)の第10小節の音階的順次進行のパスセージでは運指に注意して粒の揃った *cresc.* にする。次はこれに答えて、左手が小気味のよいリズムを3回反復するのであるが、左手の各拍の第1音に軽いアクセントをつけて、ノン・レガートに動きを強調して行き、決してリズムを引きずらぬように注意する。譜例(24)の急速なパスセージは正しい運指を選らび、トッカータ風な音の流れを確実に作りあげて、*rit.* をしないで終結するのである。

以上、12の小プレリュードの各々について、学習上の極めて基本的な諸点をあげたのであるが、楽譜の一部分のみの掲載で理解しにくい場合もおこると思はれる。然し譜例以外の部分についても小節数を明示して説明と意見を述べたので、全曲の楽譜を参照して読まれることを希望する次第である。

〔参考文献・楽譜〕

- A. シュヴァイツァー「バッハの芸術」1943 津川圭一訳
 属啓成「バッハの生涯と芸術」1968
 W. エマリ「バッハの装飾音」1956 東川清一訳
 ヘルマン・ケラー「バッハのクラヴィーア作品」1972 東川清一、中西和枝共訳
 ギーゼキング「ピアノとともに」1968 杉浦博訳
 ブゾーニ版「バッハ小前奏曲とフゲッタ」
 フィッシャー版「同上」
 ウィーン原典版「同上」
 井口基成校訂「バッハ集IV」1951

(昭和54年10月31日受理)